

日本人との距離

吳少志

日本に来て、日本に長年住んでいる家族のおかげで、生活にすぐ慣れました。学校は大阪にあるので、奈良に住んでいる私にとって電車に乗ることはもう生活の一部になりました。自国でもよく電車を乗っていましたけれども、日本で初めて電車に乗ったとき、なにか違う雰囲気気がつきました。い、た、い、ど、二、が、違、う、ん、だ、ろ、う、と、私、が、ず、と、考、え、て、い、ま、し、た。まるでひととこな、と、ま、に、ア、ナ、ウ、ニ、サ、一、の、声、が、し、ま、し、た。"まもなく大阪上本町にとまります。忘れもののないように――"とアナウンスにしたがって降りようとした人々は静かに席に近づきました。静かに、そう！その声は静かというのです。奈良から大阪まで二の40分ぐらいの時間で、電車の中はずと静かな空気が流れていました。電車は線路の上を走るゴシゴシという音が響いていました。たが、かえって和やかな感じがしました。電

車の中を見回してみると皆は一様に頭を下げて本を読んだり携帯を見たりしています。まるで自分の世界にひたっているようです。自国の電車で光景を思い返せば、えてして携帯で大声で話した乗客がいて携帯とか音楽プレーヤーとかを使って音楽を流してほかの乗客の気持ちもがまわらない人もありました。日本に来てからというもの、私も日本人のように電車で静かに本を読むようになりました。騒音のない電車にいるとなんだかそのラッラッアワーの満員電車はさながら空いているような感じがします。その感じの正体は人との距離感というものだろうと思います。それは日本人との距離を意識した最初の出来事でした。次は、大阪の大手デパートで買い物した時のことです。日本に来たばかりのあの時の私にとって、会話力の不足が原因で人に声をかけられても返事ができないのが恥しかった。もし店員が商品をおたすら勧めてくれれば私は、たいてい困ると思ってしまうました。

けれども、それは余計な心配だとわかりました。緊張した気持ちを持ってはじめてある店舗に入りました。「いらっしゃいませ」と丁寧に挨拶してから緩びつつ私の側にすこし近づきました。なんと私とある程度の距離のところに立って、もっと近づこうともしませんでした。その距離のおかげでほとんどした私はの人びりと商品を選ぶことができました。今思い返せば、自国で買い物をした時にいつも店員に当たすら商品を勧められ、ついついいろいろな物を買ってばかりいました。あとは後悔してもしようもありませんでした。日本での買物の経験を通して距離というものの大切さをつくづく感じました。よく考えてみると、その距離があるからこそ、客たちが遠慮なくの人びりできるようになります。距離といっても、実は、それは人に対して尊敬をもつ意識でなくてなんだろうか。人に自分の考えを押しつけることなく、選ぶ余裕をつくるように心掛けるという長年の日本人にもたれる意識

に私は感心しました。

電車といわず、買い物距離といわず、まるで人と関わる気がないような日本人がどんな場合でも距離というものを大切にするのか、答えはそうではありません。これはスーパーの駐輪所での出来事でした。席がほとんど残っていったが、その駐輪所に置く場所がや、と見つか、私は自転車をそこに止めました。その時隣の自転車がぶつかってしまっ、と。ちの自転車も倒れそうな状況になり、私は両手で一台ずつしっかりと握りました。見回してどれもない、その場で私の力も限界がありますからこのままいくと両方の自転車が何秒後かに倒れてしまおうといらいらしました。もしそうな、たら、後ろ二十台ぐらいの自転車が全部倒れるであらうという状況で頭が真っ白にな、てもうどうしようもない、その時に急にとこからとまなく少年の姿が現れて猛スピードで私の右側の自転車を持ち上げてくれました。助けてもら、て大変な事故を免れ、私は

心から何度もありがとうございますと感謝しました。その少年は私に「ちや」とほほえむと、くるりと背を向け、自分の自転車のところにまどって鍵をかけてその場をさっそうと走り去ったのです。なるほど、あの少年はまだ自分の自転車を「ちや」と置いていないにも関わらず反射的に私を助けてくれたわけですね。それは私が日本人と初めてそんなに近い距離で交流したことです。その短い時間に言葉もいらなく、その急に近くな。た距離はあ。たかみをもちますことが出来ます。

私からいうと日本人との距離は文化を表わすものです。距離の変化を通して相手の気持ちも尊重することがわかるようになりました。私たち外国人にとって、日本語はもとより、距離というような微妙な文化を勉強する必要があると思っています。場合によって距離が変わりますが、そこに日本人の相手を思いやる心があるのではありませんか。